

事業報告書

事務局経営戦略課

1 法人の管理運営事業

定例評議員会を1回（6月25日）、定例理事会を2回（6月10日・3月19日）のほか、臨時理事会を书面決議により1回（4月1日）、対面により1回（6月25日）、評議員選定委員会を1回（6月20日）開催した。

指定管理業務の円滑な運営のため、宮崎市、宮崎市教育委員会の各担当部署並びに各施設との綿密な連絡調整を行うと共に、公益法人として、定款及び規則に定めた人事・財務などの所掌事務を適切に行った。

2 研修事業

内部研修・・・職員の資質向上のため、年間研修計画に基づき、研修を実施した。

階層別研修、特別研修（外国人対応研修、応急手当研修）などを実施した。

研修回数 11回 職員参加者数 延べ 178人

外部研修・・・宮崎県博物館等協議会の研修会に参加すると共に、防火管理者講習や、公益法人会計について学ぶ会計セミナー、働き方改革企業支援事業講演会等に参加した。

3 健康管理事業

職員の健康管理のため、職員から産業医への健康相談ができるような体制を整え、長時間労働者への健康相談の勧奨のほか、各施設で合計6回の健康相談を計画した。計画した健康相談の利用はなかったが、職員の休職に関連して、事務局から産業医への相談、および休職者本人から産業医への個別相談が行われた。

4 その他

定款に定める目的を達成するため、協会横断的な以下の事業を行った。

（1）処遇の改善

職員の待遇改善を図るため、契約職員と無期転換職員の給料表、並びに非常勤職員の給料と臨時職員の賃金の改定を行った。併せて役付手当支給対象者の拡大、通勤手当の改正、宮崎市民プラザの夜勤に従事する職員に支払う夜勤手当の額の改定を行った。（令和7年4月1日施行）。

（2）経営推進会議の開催

協会の定款上の目的実現を踏まえ、物価高騰等の厳しい経営環境と時代の変化に対応するため、3回にわたり、各館の「魅力増」、「収益増」に繋がる取り組みに関する情報共有や意見交換を行った。

（3）協会機関誌「まなぶんか」の発行

1市2町（宮崎市・国富町・綾町）に向け、科学や歴史・文化に関するタイムリーな話題を随時提供しながら、季節ごとのイベントの紹介や、イベントの背景や見どころなどを詳しく紹介する協会機

関誌を年3回発刊し、宮崎市、県内の教育委員会・小学校・中学校・各支援学校・博物館等施設、1市2町の幼稚園・保育所等、宮崎銀行各支店、小児科医院、宮崎科学技術館「友の会」会員、入館者等に配布した。

A4版8ページ、カラー印刷、各4,500部（年3回）

（4）公益財団法人宮崎文化振興協会モニターによるモニタリング

来館者に限らず、広く地域住民のご意見をお伺いし、次の事業展開や施設管理に反映させるため、1市2町の在住者を対象にモニターを公募し、アンケート協力や協会への提言等、協会の施設運営への意見をいただいた。

なお、意見交換会を2月に実施し、各種事業や各施設の改善点等を協議した。

意見交換会 1回 モニター人数 16人

（5）子どものための音楽会の開催

音楽の生の演奏や音色に触れ、乳幼児の情操を育むため、宮崎市民プラザにおいて演奏会を開催した。

実施回数 1回 参加者数 350人

（6）授業づくりサポート事業

学習学校教育支援の一環として、1市2町の小学校理科担当教諭に対し、理科の授業づくりの全般のサポートを行った。また、各自の課題に応じて適切なサポートを行うことで、各学校における理科教育の向上を図った。

出前講座等の実施回数 4回 参加学級 5学級

（7）学術・科学技術・文化・芸術振興のための研究事業の実施

学術及び科学技術、文化等の普及・啓発・振興を図るとともに、職員の職務能力の向上のため、指定管理する施設の発展や業務達成に貢献できると認められる研究を実施し、その費用の一部又は全部を補助した。

また、令和7年度的全職員研修内にて研究事業表彰式と研究発表、理事会及び評議員会で研究事業成果発表を行う予定。

研究本数 6本 研究者数 延べ10人

（8）ぶんしんきょうチャンネルの配信

協会内の各施設のホームページ上に開設している「ぶんしんきょうチャンネル」において、動画コンテンツを定期的に配信することにより、家にいながら各施設の魅力に触れることができるようにし、来館意欲を高めた。

動画掲載数 45本（令和7年3月末現在）

宮崎科学技術館

1 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、令和6年度においても展示室、プラネタリウム事業等の円滑な運営を行うための保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	297日	プラネタリウム投映日数	294日
入館者数	136,766人	利用者数	58,539人
1日平均入場者数	460人	1日平均利用者数	199人

※6/4 投影機トラブルにより、プラネタリウム無料

【臨時休館（下記5日間）】

※8/9 8/8に発生した地震の影響により、臨時休館（館内安全確認のため）

※8/28-30 台風10号接近及び施設点検のため、臨時休館

※2/4 宮崎科学技術館外壁工事（R6.10.22~R7.3.7）の影響（塗装）により、臨時休館

※12/21 トワイライトミュージアム事業実施のため、開館時間を19時まで延長

※プラネタリウム利用者数は、プラネタリウム事業入場者数に、コンサートや貸館利用等の多目的利用を含んだ人数

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	71,091人（52.0%）
大人	65,675人（48.0%）
合計	136,766人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	120,432人（88.1%）
団体	16,334人（11.9%）
合計	136,766人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内（宮崎市・国富町・綾町）

幼稚園・保育所等	4,838人（46.7%）
小学校	3,844人（37.1%）
中学校	645人（6.2%）
高等学校	130人（1.3%）
一般	297人（2.9%）
児童クラブ	324人（3.1%）
福祉施設	275人（2.7%）
合計	10,353人

・広域圏外（宮崎県内上記以外）

幼稚園・保育所等	848人（15.9%）
----------	-------------

幼・小合同	22 人 (0.4%)
小学校	2,517 人 (47.4%)
中学校	417 人 (7.8%)
小・中合同	117 人 (2.2%)
高等学校	50 人 (0.9%)
一般	450 人 (8.5%)
児童クラブ	761 人 (14.3%)
福祉施設	137 人 (2.6%)
合 計	5,319 人

④ 県外団体利用内訳

幼稚園・保育所等	48 人 (7.3%)
小学校	47 人 (7.1%)
中学校	44 人 (6.6%)
一般	237 人 (35.8%)
児童クラブ	254 人 (38.4%)
福祉施設	32 人 (4.8%)
合 計	662 人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	16	617	93.2
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	1	24	3.6
関東	1	21	3.2
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
海外	0	0	0
合計	18	662	100.0

⑥ 九州・沖縄内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	1	31	5.0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	2	48	7.8
大分	0	0	0
鹿児島	11	476	77.2
沖縄	2	62	10.0
合計	16	617	100.0

2 常設展示事業

世界に2基しかないアポロ11号月面着陸船原寸大模型をはじめとした大型の展示物の他、人気の4D-VR（2人乗り連動チェア）やVRゴーグル8台を設置し、先端科学技術を集約した展示物は約120点にのぼる。来館者が体験を通して科学の不思議や自然の素晴らしさに気付くことに努め、科学に対する興味・関心を高めさせることができた。

なお、令和4年度からは、映像技術の最先端である3Dホログラムディスプレイや3D回転アームディスプレイを導入し、集客力の向上に努めた。

また、来館者自身が所持しているスマートフォンやタブレット端末に日本語や英語、中国語（繁体字）で展示案内の表示や音声案内ができるモバイルガイドシステムの導入や、日本語による解説文表示や音声案内により、外国人だけでなく視覚、聴覚に障がいのある方々にも利用しやすい環境を構築できた。

3 教室事業

(1) 科学実験・工作教室

子どもたちに「科学する心」を育てるためのサイエンス教室や、一般の人を対象にした「生きがい科学館」、子どもから大人まで楽しめるサイエンスショーや工作教室などを、宮崎大学教育学部・農学部・工学部や宮崎県環境科学協会、みやざきキッズサイエンスラボ、J S C（教育ボランティア）、宮崎大学の自然科学体験学習の学生と共に実施した。

①	チャレンジサイエンス	実施回数	33回	参加者数	延べ	5,867人
②	ダ・ヴィンチ工房	実施回数	6回	参加者数	延べ	127人
③	生きがい科学館	実施回数	7回	参加者数	延べ	71人
④	エンジョイサイエンス	実施回数	11回	参加者数	延べ	1,396人
(工学部 7/28 106人、3/16 171人 / 農学部 6/9 106人、1/26 66人 / 教育学部 7/14 132人、9/1 148人 / サイエンス 5/5 358人、11/17 70人、12/15 83人、2/16 156人 / みやざきキッズサイエンスラボ 4/27 134人)						
⑤	宮崎少年少女発明クラブ	実施回数	19回	参加者数	延べ	733人
⑥	どろだんご教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	108人
⑦	科学技術週間工作教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	272人
⑧	自由研究サポート教室	実施回数	3回	参加者数	延べ	3人
⑨	なんでもサイエンス(インストラクター)	実施回数	12回	参加人数	延べ	1,022人
⑩	コスモランド教室	実施回数	10回	参加人数	延べ	1,930人
⑪	サイエンス親子学習教室	実施回数	2回	参加人数	延べ	56人

(2) プラネタリウム親子学習教室

学校での天文学習の補充と深化を目的に、小学4年生及び6年生、中学3年生向けの学習プログラムを行った。事後の感想も好評であった。

実施回数	小学4年生対象	2回	参加者数	延べ	411人
	小学6年生対象	1回	参加者数	延べ	132人
	中学3年生対象	1回	参加者数	延べ	51人

(3) プログラミング体験教室

学習指導要領の改訂に伴い、令和2年度から小学校でプログラミング学習が始まった。そこで、基礎から学ぶ機会を学校現場以外でも子どもたちに提供するため、プログラミングに初めて接する子どもたちに、タブレットを使って簡単な操作でプログラミング通りにドローンを動かすことができ、論理的思考を学習できる体験教室を行った。今回は、3日間連続受講によるレベルアップカリキュラムを組んだ教室を午前と午後の2回に分けて実施した。

開催期日	令和6年9月14日(土)・15日(日)・16日(月・祝)
対象者	小学3年生～中学生
参加者数	155人

(4) 「プログラミング講座」

宮崎学園短期大学と連携し、小学校低学年向けのプログラミング講座を実施した。

開催期日	令和6年11月16日(土)
対象者	小学1年生～2年生
参加者数	63人

4 プラネタリウム事業

世界最大級である直径27mのプラネタリウムに3万8千個の星々を映し出す恒星投映機や全天ビデオ投映システムを生かし、一般番組や学習番組の投映を行った。

入場者数 延べ 53,079人

投映回数 923回

(1) 一般番組

- ・永久投映権をもっている番組

「星になったチロ」「オズのまほうつかい」「むしむし星空大行進」

「今夜銀河の片隅で」「DARK」「宇宙への旅」「宇宙への第一歩」

「宇宙のエネルギー」「ピーターパン」「太陽」「見えない宇宙に挑む」

「国際宇宙ステーションからの眺め」「ゆるり星空めぐり 北極星を見てみよう！」

- ・令和6年度から投映した新番組

「秘密結社鷹の爪」「ドラえもん」「ハクシオン大魔王2020」

「アジアン・ヒーリング」「超大質量ブラックホール」「オーロラ」

(2) 学習番組

「むしむし星空大行進」(小学1・2年生向け)

「スタジオ444」(小学3・4年生向け)

「国際宇宙ステーションからの眺め」(小学5年生向け)

「ポワンとフーニャンの宇宙調査隊」(小学6年生向け)

「ゆるり星空めぐり 北極星を見てみよう！」(中学1・2年生向け)

「この空に願いを込めて…」(中学生3年生向け)

(3) 自主製作番組

「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」

(4) 星空教室

プラネタリウムホールを利用して、幼児から一般を対象に、季節の星座や神話、天文の基礎を紹介し、天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心を持ってもらうよう努めた。

実施回数 9回 参加者数 延べ 567人

(5) スターウォッチング教室

宮崎市、国富町、綾町の団体を対象に、応募団体の希望の会場に出向き、天体の基礎的な学習と天体観察を行った。望遠鏡などを用いた体験から、天文や宇宙に興味・関心をもつていただくように努めた。

実施回数 5回 参加者数 延べ 292人

(6) スターウォッチング in まちなか

中心市街地の活性化及び広報の場として、市街地(橋通り3丁目、アミュプラザみやざき屋上)での観望会を開催した。

実施回数 2回 参加者数 延べ 220人

(7) キッズアワー

幼児向けのプラネタリウムとして、通常暗いプラネタリウムを明るくし、子どもが自由に声を出したり動いたりして楽しめる内容の星や星座の話と、幼児向けの番組の投映を行った。

実施回数 12回 参加者数 延べ1,526人

(8) 土星食観察会

宇宙・天文への興味関心の向上、天文現象を身近に感じてもらうことを目的として、宮崎科学技術館3階テラスで「土星食」の観察会を12月8日（日）に開催した。

実施回数 1回 参加者数 28人

(9) 中秋の名月大観望会

日本古来の文化である「お月見」を身近に感じてもらうこと、そして宇宙・天文への興味関心の向上を目的として、宮崎科学技術館横の中央公園にて月の観望会「中秋の名月前夜祭」を9月16日（月・祝）に開催した。

実施回数 1回 参加者数 100人

(10) SORA-Q 操縦体験会

タカラトミーの企画する「SORA-Q 応援アンバサダー」に宮崎科学技術館が登録されたことを記念し、小型月着陸実証機 SLIM に搭載された変形型月面ロボット SORA-Q の操縦体験会を開催した。

開催期日 操縦体験会 令和6年9月14日（土）

参加者数 操縦体験会 50人

(11) 大人向け特別投映 Valentine's Special Program

バレンタインに合わせて大人向け特別投映を開催した。アロマシールを活用して大人向けの演出も行った。

開催期日 令和7年2月8日（土）・14日（金）・24日（月・祝）

参加者数 170人

(12) プラネタリウム特別投映「はやぶさ2の今とこれから～拡張ミッション編～」

日本プラネタリウム協議会（JPA）プラネタリウム100周年記念事業及びはやぶさ2拡張ミッションチームの講師派遣イベントの支援を受けて、宮崎県出身の三舩裕也氏（JAXA）を招聘し講演会を実施した。

開催期日 令和6年9月29日（日）

参加者数 214名

5 文化振興事業

(1) 星空と音楽の夕べ

宮崎出身者や現在宮崎で活躍している音楽家に活動の場を提供するとともに、市民文化活動高揚に資するため、プラネタリウムホールで7月と9月に開催した。星空解説と音楽の生演奏という2部構成でのコンサートを実施した。

実施回数 2回 参加者数 延べ 445人

(2) キラキラ星空コンサート

「星空と音楽の夕べ」より気軽に楽しんでいただくために、平成18年度からスタートしたコンサートであり、県内で活躍されている演奏家によるコンサートを4月と12月に実施し、幼児から高齢者までの幅広い年齢層の人に楽しんでいただいた。

実施回数 2回 参加者数 延べ 371人

(3) 星空さんぽ in プラネタリウム (オーロラスペシャル)

多くの市民がプラネタリウムをさらに利用しやすくするため、そして天文・宇宙に興味関心を持っていただけるよう、今年度話題の多かった「太陽」や「オーロラ」に焦点を当てた内容とした。

実施回数 2回 参加者数 延べ 223人

(4) えほんの読み聞かせ in プラネタリウム

プラネタリウムホールの有効活用と子どもたちの情操教育を目的として、奇数月に幼児から一般を対象に、絵本の読み聞かせを実施した。ドームシアターを利用して、絵本を大きく投映する演出をすることで、プラネタリウムホールを幅広く体感してもらえるように努めた。

実施回数 6回 参加者数 延べ 698人

6 イベント事業

(1) 主催事業

① 企画展「ドローンサッカー大会」

ドローンサッカー大会を実施し、ドローンを楽しく飛行させる機会と日常生活での活用状況を学ぶことのできる機会を提供した。

開催期日 ドローンサッカー大会 令和6年8月11日(日・祝)・12日(月・振)
参加者数 ドローンサッカー大会 231人

② 企画展「～光と鏡であそぼう!～万華鏡展」(新規事業)

鏡や光などの“科学的視点”と美しい模様の“芸術的視点”の2面で構成された企画展を通じて、幅広い年齢層が楽しみながら科学を体験し、学ぶ機会とした。また、期間中に工作体験日を設け、万華鏡の工作を通してものづくりの楽しさも感じてもらえるよう「万華鏡工作教室」も実施した。

開催期日 令和6年7月13日(土)～9月1日(日)
開催場所 多目的ホール
参加者数 合計 6,724人

③ トイレ美術館

館内トイレの壁面を活用して、職員が撮影した県内の空や天体写真を展示し、環境美化と癒しの空間づくりを行った。

開催期日 令和6年4月2日(火)～令和7年3月30日(日)
開催場所 館内トイレ内

④ こいのぼり掲揚式

近隣の幼稚園・保育所等を招き、正面玄関前でこいのぼり掲揚式を行った。その後、プラネタリウム投映を観覧した。最後に、当館で用意したミニこいのぼりを園児にプレゼントした。

開催期日 令和6年4月12日（金）

参加者数 計 22人

⑤ 「科学と遊ぼう！こどもの日」

こどもの日にちなみ、中学生以下の入館料を無料とした。また、エンジョイサイエンス「しゃぼん玉で遊ぼう」を実施した。

開催期日 令和6年5月5日（日・祝）

来場者数 計 1,445人

⑥ 第65回科学技術映像祭入選作品上映会

日本科学技術振興財団等の主催による科学技術映像祭の入選4作品を、1階展示室で上映した。質の高い映像から科学技術への関心が喚起され、その普及について啓発することができた。

開催期日 令和6年7月20日（土）～9月1日（日）

入場者数 延べ 28,943人

⑦ スペシャルサイエンスショー

子どもたちの科学への興味・関心を育むことを目的に、インストラクターが企画し、空気や色と光をテーマにしたサイエンスショーを開催した。人気のショーであり、本年度は4回実施した。

開催期日 ①令和6年5月4日（土・祝） ②令和6年6月16日（日）

③令和7年1月13日（月・祝） ④令和7年2月24日（月・振）

入場者数 ①364人 ②161人 ③165人 ④131人 計821人

⑧ 南極クラス

南極で実際に生活した越冬隊員（堀川秀昭 氏）による講話を通して、南極の生活や自然環境についての関心を高め、地球環境を学ぶ機会を設けると共に、越冬隊員が実際に南極で着用していた防寒着や、実際の生活の様子をVTRの視聴を通して、疑似体験的に学べるようにした。

開催期日 令和6年6月30日（日）

入場者数 53人

⑨ 青少年のための科学の祭典2024宮崎大会

小中学校・高校の理科教諭、大学関係者、一般企業と連携し、科学や科学技術の不思議さや楽しさを身近に体験できる34の実験ブースを出展し、科学の面白さを実感してもらうとともに、科学及び科学技術に対する関心を高める活動を実施した。

開催期日 令和6年9月21日（土）～22日（日・祝）

参加者数 計 2,475人

⑩ 教員のための博物館の日（事務局経営戦略課事業）

教職員やその子ども、大学の教職希望者、博物館関係者等を対象に博学連携を目的とし、県立西都原考古博物館、大淀川学習館、生目の杜遊古館と共同し、ワークショップを宮崎科学技術館および大淀川学習館で行った。

開催期日 令和6年8月1日（木）
参加者数 27名

⑪ JSCフェスティバル

敬老の日前日までの2日間、活動の様子のスライドショー上映やJSCによる超低温をテーマにした実験ショー、ベンハムのこま、パラシュートなどの工作教室を実施した。

開催期日 令和6年9月14日（土）～15日（日）
参加者数 計 442人

⑫ 敬老の日無料開放日

敬老の日になみ、高齢者（65歳以上）の入館料を無料とした。

開催期日 令和6年9月16日（月・祝）
来場者数 計 1,120人

⑬ スターフェスティバル2024「GO!GO!ロケット展」

隔年開催しているプラネタリウム職員による企画展。令和6年度は「ロケット」をテーマに、国産ロケットの最前線や世界のロケット事情にフィーチャーした内容で実施した。

開催期日 令和6年9月28日（土）～10月27日（日）
内 容 ロケットをテーマにしたパネルや体験展示、関連イベント等
参加者数 計 10,627人

⑭ 令和6年度宇宙画作品展

児童・生徒の創造性の育成を図り、宇宙及び宇宙開発に関する興味・関心を高めるため、宇宙をテーマにした84の絵画作品を展示した。小・中学生から205点の応募があり、内21名の入賞者を対象に、表彰式を実施した。

開催期日 令和6年11月16日（土）～12月8日（日）
表 彰 式 令和6年12月8日（日）
入場者数 延べ 1,648人（内58人は表彰式出席者）

⑮ トワイライトミュージアム

イギリス発祥の「クリスマスレクチャー」を参考に、開館時間を延長してトワイライトミュージアムを開催した。“科学をクリスマスプレゼント”をコンセプトに、館内展示物を分かりやすく解説したり、クイズラリーを行ったり、いつもとはちょっと違った科学館を来館者に届けた。

開催期日 令和6年12月21日（土）
入場者数 535人

⑯ うえちゃんのおもしろ！プラネタリウムで！？サイエンスショー

浜松科学館みらい～ら チーフエドューケーター 上野元嗣 氏を招聘し、星空（プラネタリウム）とサイエンスショーをコラボレーションさせ、エンターテインメント性の高いショーイベントを行った。トワイライトミュージアムのテーマ「クリスマスレクチャー」に合わせ、宇宙をテーマとしたサイエンスショーを行い、恒星投映機を用いて星の名前や天文現象についての解説も加えて実施していただいた。

開催期日 令和6年12月21日（土）
入場者数 192人

⑰ アウトリーチ事業

館外で実験教室や授業支援を行い、教育施設の支援や、イベントや市街地活性化の取組を支援した。

○若草通り「街市」

開催期日 令和6年5月25日（土）、10月26日（土）、12月28日（土）
令和7年3月29日（土）

内 容 「VR体験」「虹色万華鏡づくり」など

参加者数 5月 157人 10月 200人 12月 179人
3月 80人

総計 616人

○未来みやざき子育て応援フェスティバル2024

開催期日 令和6年11月9日（土）・10日（日）

場 所 宮交シティ3階 紫陽花ホール

内 容 サイエンスショー「ロケットショー」

参加者数 計 350人

⑱ インターンシップ、職場体験、学芸員資格取得実習

中学生の職場体験学習や高校生のインターンシップ、及び大学生等の学芸員資格取得実習の受け入れをし、青少年の健全育成に貢献するとともに、当館の運営や事業、業務に理解をしていただく機会とした。大原簿記公務員専門学校9名6日間、県立宮崎工業高等学校8名5日間、市立大淀中学校4名3日間、市立大塚中学校3名2日間、市立木花中学校3名3日間、市立宮崎東中学校3名2日間、市立赤江東中学校4名3日間、市立大宮中学校4名3日間、市立東大宮中学校3名3日間、市立宮崎西中学校3名3日間、市立檉中学校2名2日間、市立赤江中学校4名3日間を受け入れ、キャリア教育、来館者案内、サイエンス事業補助、プラネタリウム模擬投映等の体験を行った。

なお、学芸員資格取得実習のため、宮崎大学農学部1名、工学部1名、九州大学大学院1名を8月7日（水）～18日（日）の期間中に5日間受け入れた。

参加者数 延べ 53人

⑲ 宮崎市教育委員会新規採用教職員初期研修

宮崎市に勤務する小・中学校の新規採用教職員に対して、教育施設を活用した授業づくりについての研修を行い、実践的指導力を向上させる機会とした。

開催期日 令和6年11月14日（木）・21日（木）

参加者数 27人

⑳ 宮崎大学理科教育基礎研究フィールドワーク授業

学校以外の関係機関と連携した理科学習をすることを目的に、地域の科学館におけるフィールドワークを実施し、施設の概要及び管理運営についての説明、展示物解説、プラネタリウム視聴を行った。

開催期日 令和6年5月11日（土）

参加者数 6人

㉑ 科学技術週間工作教室

科学技術週間に合わせて、工作教室を実施した。多くの親子がスカイスクリーンの製作を行い、

製作後は作ったスカイスクリーンを楽しそうに飛ばしていた。

開催期日 令和6年4月20日（土）・21日（日）

参加者数 272人

② 授業づくりサポート事業（事務局経営戦略課事業）

学習学校教育支援の一環として、宮崎市・国富町・綾町の小学校理科担当教諭に対し、理科の授業づくり全般のサポートを行った。また、各学校における理科教育の向上のために、各自の課題に応じた適切な支援を行った。

開催期日 令和6年10月1日（火）・2日（水）

開催場所 宮崎市立大淀小学校 理科室

参加者数 111人

③ 移動販売車招聘

宮崎駅東地区の賑わい創出及び地域連携の一環として、玄関前を活用し、「移動販売車の招聘」を行った。

開催期日 令和6年4月～令和7年3月

開催場所 宮崎科学技術館 玄関前

（2）共催事業 （ ）は主催者名

- ① 航空教室 実施日 令和6年5月25日（土） 参加者数 41名
（航空大学校） 令和7年2月22日（土） 参加者数 29名

- ② 宮崎地区サイエンスコンクール展 実施日 令和6年9月3日（火）～9月8日（日）
入場者数 延べ 695人
（翔け！未来の科学者育成事業推進委員会、宮崎地区実行委員会）

- ③ みんなでデコ活2024 実施日 令和6年9月28日（土）
（宮崎県地球温暖化防止活動推進センター）
入場者数 398名

- ④ 宮崎県学校発明くふう展 実施日 令和6年10月18日（金）～20日（日）
（宮崎県発明協会） 入場者数 476人

- ⑤ コズミックカレッジ 実施日 令和6年11月9日（土）
（宮崎ハマユウ会） 入場者数 63人

- ⑥ エフエム宮崎開局40周年記念事業 実施日 令和6年12月1日（日）
（エフエム宮崎） 入場者数 235名

- ⑦ 市政100周年記念事業 若者ミライ提言事業 実施日 令和6年12月15日（日）
（宮崎市総合政策部企画政策課） 入場者数 20名

- ⑧ 宮崎市中学校毛筆展 実施日 令和7年1月21日(火)～1月26日(日)
(宮崎市中学校書写部会) 入場者数 延べ 1,261人
- ⑨ 集まれ!宮崎アマテラスガールズプロジェクト キャリア講演会&エンジニアリングカフェ
(宮崎大学工学部) 実施日 令和7年2月22日(土)
入場者数 42名
- ⑩ ロボットプログラミングで HAYABUSA2#ミッション 実施日 令和7年2月23日(日・祝)
(ロボ団 宮崎中央校) 入場者数 132名

7 情報提供と広報活動

I C T (情報通信技術)を積極的に活用し、館の「Y o u T u b e チャンネル」や「S N S (Instagram、フェイスブック、X)」を用いた情報提供や広報活動を行った。また、ホームページを一部改良し、教室講座の内容を写真付きで紹介し、教室講座毎に申込ページを新設することで、申し込みの利便性の向上を図った。

宮崎市歴史資料館

【宮崎市生目の杜遊古館】

1 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、宮崎市生目の杜遊古館の管理運営業務について展示物の適切な管理、施設維持のための保守・点検を実施するなど、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	302日
入館者数	32,535人
1日平均入館者数	108人

※8/28、8/29、8/30は台風により臨時休館

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	8,521人（26.2%）
大人	24,014人（73.8%）
合計	32,535人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	23,432人（72.0%）
団体	9,103人（28.0%）
合計	32,535人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所等	507人（5.9%）
小学校	1,152人（13.3%）
中学校	221人（2.5%）
一般	6,799人（78.3%）
合計	8,679人

・広域圏外

幼稚園・保育所等	0人（0%）
小学校	74人（28.0%）
中学校	53人（20.1%）
一般	137人（51.9%）
合計	264人

④ 県外団体利用内訳

一般	160人（100%）
小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
合計	160人

⑤ 県外地域別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	3	51	31.9
四国	0	0	0
近畿	0	0	0
中国	0	0	0
中部	0	0	0
関東	4	81	50.6
東北	1	28	17.5
北海道	0	0	0
合計	8	160	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	1	14	27.5
大分	1	34	66.6
鹿児島	1	3	5.9
沖縄	0	0	0
合計	3	51	100

2 常設展示事業

展示室1では旧石器時代から近現代に至る宮崎市域の歴史について、展示室2では国指定重要文化財である「下北方5号地下式横穴墓出土品」について、展示室4では隣接する国指定史跡生目古墳群や宮崎市内の遺跡から出土した埋蔵文化財について展示・紹介した。

3 企画展示事業

展示室3で次のとおり企画展示を行った。

(1) 企画展「市制100周年記念 宮崎市のあゆみ」

市制100周年を迎えた宮崎市のあゆみについて「町村制」施行前後から、明治の大合併、市制開始、昭和・平成の大合併に至るまでの年表やトピックごとの資料を展示し、解説した。

開催期日 令和6年10月19日（土）～12月8日（日）

入場者数 延べ 5,812人

(2) 企画展「お墓は語るー墓制・葬制から学ぶ歴史と文化ー」

お墓について時代ごとの変遷やその墓制・葬制、各地に残る墓碑やそれにまつわる伝説等を紹介し、銭貨や煙管などの資料や写真パネルなどを用いて展示を行い、お墓の歴史を辿った。

開催期日 令和7年1月25日（土）～3月9日（日）

入場者数 延べ 3,709人

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 開館15周年記念事業

生目の杜遊古館の開館15周年を記念し、著名な講師を県外から招いての講演会や市制100周年に因んでの宮崎市史編さん委員によるリレー講座を開催した。

① 記念講演会

8月 3日（土）「弥生・古墳時代の暦を考えるー考古天文学の視点からー」参加者104人

10月19日（土）「創られた県庁所在地ー近代都市宮崎の成立ー」参加者117人

② リレー講座

実施回数 5回（考古・古代・中世・近世・民俗）

内容(演題)「遺跡が語る宮崎の歴史～序章～」

「宮崎の古代ー人々は古代の日向をどのように理解してきたかー」

「中世の幕開け 荘園と伊東氏」

「よみがえる近世の宮崎―藩主内藤政義の宮崎巡見―」

「野生動物と人の関係は大丈夫か：大正期からの統計と街に出没する野生」

参加者数 延べ 232人

(2) 講座

① 歴史文化講座

宮崎の歴史・文化について、外部専門家を講師として招いたほか、当館館長による講座も実施した。

実施回数 8回

内容(演題) 「日向神話と出土文字資料」、「野生動物と動物園～その2」、「幕末の宮崎」、「宮崎の戦争 その4」、「江戸の異文化交流Ⅱ幕末編～異国を見てきた日本人、来訪した外国人～」、「みやざき民俗の魅力発見！ブリコラージュの視座から」、「宮崎の戦争 その5」、「江戸の娯楽と芸能」

参加者数 延べ 347人

② みんなの考古学講座

宮崎市内の遺跡や遺物に関する講座として、宮崎市教育委員会文化財課の専門職員により最新の埋蔵文化財の情報を講話した。

実施回数 5回

内容(演題) 「平安時代の巨大建物の謎 加納の丘に刻まれた歴史」
「ここまでわかった佐土原城～中世山城から近世城郭へ～」
「発掘調査でわかった佐土原城下」
「また！？ホーム 古代下北方の住宅事情」
「市街地に眠る飛鳥時代の大集落」

参加者数 延べ 217人

③ 古文書講座（中級編）

宮崎市市史編さん室の専門職員を講師に迎え、古文書の解読演習の中級編を行った。

実施回数 5回 テキスト『入田家由緒書』ほか

参加者数 延べ 43人

(3) 歴史文化体験（わくわく学芸員講座）

学芸員による歴史や文化にまつわる講座やモノ作りを実施した。

実施回数 4回（7月、11月、2月、3月）

実施内容 「風鈴の絵付け」、「古文書基礎知識」、「上井覚兼・島津啓次郎の漢詩（座学）」、「御朱印帳づくり」

参加者数 延べ 69人

(4) 体験学習・古代体験プログラム

「革細工のコースターづくり」等の古代のモノ作り体験や昔の人々の暮らしと関連した「ミニ門松づくり」等の製作体験を行うもので、子どもと保護者及び一般の参加者を対象に実施した。

体験学習 実施回数 18回

実施内容	革細工のコースターづくり・カラー勾玉づくり・古代織りでコースターを作ろう・土器づくり・竹で一輪挿しを作ろう・藍染に挑戦・いにしへの鏡づくり・紙バンドでボールを作って蹴鞠をしよう・石臼で粉をひこう・リースを作ろう・古代米で餅つきをしよう・ミニ門松でお正月・古代米でぜんざいを作ろう・竹馬を作って遊ぼう・ダッチオーブンで古代パン・昔の生活から学ぶアウトドア活動・古墳ウォークラリーとカレー炊飯・木綿のバッグの草木染め		
参加者数	延べ	418	人

古代体験プログラム

実施回数	71回（4～3月）	勾玉・はにわ
参加者数	延べ	812人

（5）学校教育等との連携

学校教育や幼児教育等への支援として、勾玉づくりやチャレンジゲーム、史跡ウォークラリーといった体験活動や展示室・生目古墳群見学などのプログラムを実施した。

小・中学校・高等学校	来館校数	延べ21校
	来館者数	延べ1,757人
幼稚園・保育所	来館園数	延べ15園
	来館者数	延べ507人

その他

- ・地域住民向けの出前講座等 10回 延べ392人
- ・宮崎市児童生徒作品展 観覧者 延べ2,696人
- ・中学生職場体験 参加3人

5 イベント事業

（1）こどもの日特別企画

ゴールデンウィーク期間中の5月5日（日・祝）に子どもを対象としたイベントとして、館内シールラリーやミニこいのぼり・紙かぶとづくり、昔の遊び体験（竹馬・竹ぼっくり・竹とんぼ）を実施した。

参加者数	大人	68人
	子ども	37人
	計	105人

（2）遊古館デイキャンプ

日中から日没後にかけて、宿泊を伴わないデイキャンプを2回実施した。火おこし体験や飯盒炊飯とともに、1回目は大淀川学習館職員の指導のもとでの生き物採集、2回目は宮崎科学技術館職員による天体クイズやミニロケット工作を行った。（予定していた星空観望会は天候不良のため中止した。）

- 【1回目】令和6年7月27日（土）14：00～21：00 29人
- 【2回目】令和7年1月11日（土）15：00～20：00 27人

(3) レッツ！タイムワープ in 遊古館

小学4～6年生を対象とした連続講座として、歴史・民俗学など昔の人々の生き方を辿りながら、SDGsの理念に沿って、体験し学ぶプログラムを実施した。

実施回数 5回

参加者数 延べ 103人

なお、第4回では「開館15周年記念高座on講座」として、日本の伝統芸能である落語についてアマチュア落語家を招き、子どもも小話を披露する場も取り入れた落語会を開催し、一般参加者を含め33名が参加した。

(4) 歴史3館シールラリー

宮崎市歴史資料館3館（生目の杜遊古館・佐土原歴史資料館・天ヶ城歴史民俗資料館）を広く周知し相互利用の促進を図るため、3館を巡り、展示室に隠されたシールを集めて合言葉を作るシールラリーを開催した。

開催期間 令和7年2月1日（土）～3月2日（日）

参加者数 150人

達成者数 96人

(5) みやざき生目古墳まつり応援事業「生目の杜遊古館 de 歴史遊び with 生目古墳群 de ピクニック」

宮崎市文化財課主催の「生目古墳群 de ピクニック～」に合わせ、勾玉づくりやシールラリー、竹馬等の昔の遊び体験を史跡公園会場ブースや遊古館展示室等で実施した。

また、「みやざき歴史キッズ2024」を共催した。

開催期日 令和6年11月16日（土）

参加者数 604人

6 資料収集、調査・研究等

- ・市民の資料に関する照会・相談を受けたほか、「令和6年度宮崎市歴史資料館 研究紀要」を刊行予定。
- ・展示室について温度・湿度管理などを行い適切な管理を行った。

7 情報提供と広報活動

行事カレンダー・各種チラシ等を学校・地区交流センター等各方面に配布するとともに市広報や各種情報誌を活用して参加者募集など利用案内の広報活動を積極的に行った。

ICT（情報通信技術）も積極的に活用し、ホームページやSNS（インスタグラム、フェイスブック）を用い随時情報提供や広報活動を行った。

※佐土原歴史資料館、天ヶ城歴史民俗資料館についても同じ。

【宮崎市佐土原歴史資料館】

1 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、宮崎市佐土原歴史資料館の管理運営業務を行い、展示物の適切な管理、施設維持のための保守・点検を実施するなど、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	137日
入館者数	9,021人
1日平均入館者数	66人

※3/29～3/30において鶴松館を大手門北塀倒壊により臨時休館

※8/10、8/31～3/31において商家資料館「旧阪本家」を地震により臨時休館

(2) 利用内訳

①入館者数（小人・大人）内訳

小人	2,224人（24.7%）
大人	6,797人（75.3%）
合計	9,021人

②入館者数（個人・団体）内訳

個人	8,241人（91.4%）
団体	780人（8.6%）
合計	9,021人

③県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所等	0人（0%）
小学校	475人（78.1%）
中学校	0人（0%）
一般	133人（21.9%）
合計	608人

・広域圏外

幼稚園・保育所等	0人（0%）
小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
一般	13人（100%）
合計	13人

④県外団体利用内訳

一般	159人（100%）
小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
合計	159人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	1	31	19.5
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	1	12	7.6
関東	4	88	55.3
東北	1	28	17.6
北海道	0	0	0
合計	7	159	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	1	31	100
沖縄	0	0	0
合計	1	31	100

2 常設展示事業

(1) 鶴松館

江戸期の佐土原城二の丸居館跡の発掘調査をもとに城館を再現した「鶴松館」では、佐土原藩にまつわる掛軸・屏風・鎧兜などや、佐土原島津家の調度品を展示するとともに、地元に伝承される佐土原人形を展示した。藩主が日常政務をとる場の外観を再現した書院では、古代から近代にかけての佐土原の歴史について、各時代の資料を展示し解説した。

(2) 商家資料館「旧阪本家」

江戸期から味噌や醤油の醸造販売を手がけていた商家「旧阪本家」（明治 38（1905）年築、重層入母屋造。市指定有形文化財・市景観重要建造物）を資料館として、1 階に机や銭箱などを配した帳場を再現し、2 階に当時の商いに関する資料や城下の町並みの古写真を展示した。

3 企画展示事業

企画展「佐土原人形が魅せる物語」

佐土原藩から伝わる伝統的な土人形である佐土原人形について歌舞伎人形や風俗人形を展示し、まつわる物語について紹介した。

開催期日 令和 7 年 2 月 1 日（土）～ 3 月 2 日（日）

入場者数 延べ 1, 256 人

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

子ども（小学生以上）と保護者等を対象に、城下町佐土原に古くから伝わる工芸品等の製作や伝統文化を体験した。また、佐土原城等の史跡からピックアップした 77 カ所の一部を巡る体験学習を実施した。

実施回数 7 回

内 容 「お城で生け花体験」、「お城で体験！『色や香り』」、「チャレンジ 77 佐土原旧跡巡り」、「佐土原人形の絵付け体験」、「お城で寄せ植え体験」

参加者数 延べ 85 人

(2) 学校教育等との連携

学校教育において社会科学習や総合的な学習等による学校の団体利用があった。また学校や地域団体を対象とした出前事業を実施した。

① 団体利用

小学校	来館校数	延べ	4校
	来館者数	延べ	266人

② 出前授業・研修

参加数	延べ	4件	(うち3件は学校。その他は地域づくり協議会)
参加者数	延べ	283人	

5 イベント事業

(1) お城でコンサート

伝統建築の鶴松館で歴史の風情を感じながら、生演奏のコンサートを夜に開催した。

開催期日	令和6年10月29日(火)
参加者数	33人

(2) 花しょうぶまつり(共催事業)

佐土原小学校区地域づくり協議会と共催で鶴松館西にある花しょうぶ園をメイン会場として、まちおこしを目的とした花しょうぶまつりを実施した。鶴松館では、神代独楽体験や野点のほか大正琴や演歌・日本舞踊のステージコンサートなど多数のイベントが行われた。

開催期日	令和6年6月1日(土)～2日(日)
参加者数	1,998人

6 資料収集、調査・研究等

- ・市民より軸物・文書等計31点の資料寄贈を受けた。
- ・7月、3月に宮崎市佐土原歴史資料館ほか2施設合同で簡易燻蒸庫による資料の殺菌・殺虫燻蒸を行ったほか収蔵庫及び展示室について適切な管理を行った。

【宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館】

1 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館の管理運営業務を行い、展示物の適切な管理、施設維持のための保守・点検を実施するなど、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	136日
入館者数	13,316人
1日平均入館者数	98人

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	5,091人（38.2%）
大人	8,225人（61.8%）
合計	13,316人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	10,845人（81.4%）
団体	2,471人（18.6%）
合計	13,316人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所等	0人（0%）
小学校	2,414人（98.9%）
中学校	0人（0%）
一般	28人（1.1%）
合計	2,442人

・広域圏外

幼稚園・保育所等	0人（0%）
小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
一般	0人（0%）
合計	0人

④ 県外団体利用内訳

小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
一般	29人（100%）
合計	29人

⑤ 県外地方等別団体利用内訳

地域 国	団体 数	人数	比率%
九州	1	29	100
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	1	29	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	1	29	100
沖縄	0	0	0
合計	1	29	100

2 常設展示事業

大淀川とともに生きてきた旧高岡町の人々の歴史・文化・民俗を映像や民俗資料で紹介している。また薩摩藩の外城として栄えた江戸時代の高岡、穆佐の武家社会の様子などを甲冑や古文書などの歴史資料と、当時の町並みをイメージして作られた模型とともに解説している。見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土愛を培う場を提供した。

3 企画展示事業

企画展「江戸時代のたかおか」

藩政期、薩摩藩直轄領高岡郷・穆佐郷であった高岡の歴史や民俗について『黒江家文書』などの古文書や絵巻といった史資料を展示・解説し、高岡の歴史に親しむ機会を提供した。

開催期日 令和7年3月15日（土）～4月14日（月）

入場者数 延べ 4,453人（令和6年度入場者数）

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

子どもと保護者、一般を対象として、かぶとや弓矢などの昔ながらのおもちゃやミニ門松づくり、二見家住宅（宮崎県指定有形文化財）を活用した体験学習等を実施した。

実施回数 10回

内 容 かぶとづくり・竹で万華鏡づくり・弓矢づくり・色、模様を生かした作品づくり・水鉄砲づくり・凧づくり・天ヶ城でミニ門松づくり・二見家住宅でかまど炊飯体験

参加者数 延べ 145人

(2) 学校教育等との連携

総合的な学習等による学校の団体利用があった。

小学校 来館校数 2校

来館者数 106人

(3) 授業支援事業「昔の道具と人びとの暮らし」

当館所蔵の民俗資料（昔の道具）を活用し、小学校3年の社会科における「市のようにとくらしのうつりかわり」の学習等の充実に資することを目的として実施した。

対 象 宮崎市、国富町、綾町の小学校
実施校数 29校
参加者数 延べ 2,308人

5 イベント事業

(1) 高岡歴史かるたで遊ぼう

高岡町域の寺社仏閣・文化財・史跡・先人・物産といった事柄を取り扱った高岡歴史かるたを用い、高岡の歴史や文化を学びながらのかるた遊びを行うとともに、かるた大会を開催した。

開催期日 第1回 令和6年7月 7日（日）
第2回 9月 1日（日）
第3回 10月 6日（日）
大 会 11月10日（日）
講 師 高岡歴史かるた会 山口孝治氏ほか
参加人数 延べ 58人

(2) 高岡麓のまちなみを歩こう

歴史的な建造物や文化財が多くみられる高岡町麓地区のまちなみを散策し、故郷高岡に対する理解を深め、郷土愛を高める機会とした。

開催期日 令和6年5月26日（日）
参加者数 14人

6 資料収集、調査・研究等

- ・令和6年度は2件の寄贈があった。
- ・収蔵の古文書について翻刻作業を行った。令和6年度研究紀要に掲載予定
- ・7月、3月に宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館ほか2施設合同で簡易燻蒸庫による資料の殺菌・殺虫燻蒸を行ったほか収蔵庫及び展示室について適切な管理を行った。

大淀川学習館

1 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受けた2年目であり、大淀川学習館の適切かつ円滑な管理運営業務を行うため、展示物の工夫等を行うとともに、施設の維持管理、保守・点検などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	301日
入館者数	104,456人
1日平均入館者数	347人

※日向灘沖地震発生による臨時休館 1日間(8/9)

※台風による臨時休館 3日間(8/28～30)

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小人	57,534人(55.1%)
大人	46,922人(44.9%)
合計	104,456人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個人	93,229人(89.3%)
団体	11,227人(10.7%)
合計	104,456人

③ 県内団体利用内訳

・ 広域圏内 学校団体

幼稚園・保育所等	4,007人(63.6%)
小学校	2,230人(35.4%)
中学校	0人(0.0%)
高等学校	0人(0.0%)
大学・短期大学	46人(0.7%)
特別支援学校	16人(0.3%)
合計	6,299人

・ 広域圏外 学校団体

幼稚園・保育所等	291人(28.0%)
小学校	687人(66.1%)
中学校	0人(0.0%)
高等学校	0人(0.0%)
大学・短期大学	26人(2.5%)
特別支援学校	35人(3.4%)
合計	1,039人

・ 一般団体

医療・福祉	3,388人(89.5%)
教育	48人(1.3%)
その他	349人(9.2%)
合計	3,785人

④ 県外団体利用内訳

小 人	75 人
大 人	29 人
合 計	104 人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	3	49	47.1
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	1	55	52.9
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
海外	0	0	0
合計	4	104	100.0

⑥ 九州・沖縄内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	3	49	100.0
沖縄	0	0	0
合計	3	49	100.0

2 展示事業

(1) 常設展示

大淀川流域の自然や文化、歴史などについて、解説パネル展示とともに、顕微鏡を用いて見ること、標本やはく製等へ直に触れること、身近な動植物への新たな気づきを楽しむことを通して、学びを深めるための展示を行っている。

令和6年度は、経年劣化により不具合を起こすパソコンが増えたため、パソコンを撤去するとともに、デジタル顕微鏡の台数を増やすことで、来館者が生き物についてより詳しく観察できる機会を増やした。

(2) 生体展示

① 自然^{がくしゅう}楽習園

自然^{がくしゅう}楽習園では、子どもたちの自然観察力を向上させるため、季節に応じてチョウの食草や蜜源植物を設置し、令和6年度は、年間4, 014頭を放蝶することで、常時30～100頭を自然環境に近い状態で観察できるように維持した。夏の猛暑や冬の寒暖差をはじめとする天候不順により、種類によっては卵や幼虫の生育が難しい時期があったが、成体の採集の機会を増やすなどして、樹液に集まるチョウやツマベニチョウなど、生息域の限られるチョウも放蝶することができた。

② 生体展示ホール

大淀川の上流から日向灘までのつながりを一体的に学ぶ場として、小型水槽と大型水槽では、大淀川の上流域から河口域にかけて生息する魚を、円型水槽においては、日向灘に生息する海洋生物を展示した。日本三大怪魚のひとつであるアカメや、大淀川固有種のオオヨドシマドジョウ等の希少な生体からカニやカメ等の身近な生き物まで幅広く揃え、子どもの興味や視線の高さ、季節等に応じて、随時、配置換えを行った。アカメについては、一頭が亡くなったものの、幼魚から飼育していた個体を大型水槽に移すことができ、順調に飼育できた。また、バックヤードにはアカメの新たな個体を飼育することができており、

切れ目なく展示ができる体制をとることができている。また、メダカの飼育環境を整え、教室等で使用するメダカについて、館内で調達できるよう方向性をつけることができた。

③ ホタル展示室

水質保全意識の向上を図るため、清流の象徴であるゲンジボタルを展示した。成虫だけではなく、卵や幼虫、蛹の展示も行い、解説や飼育体験を通して、子どもたちの学習機会を確保した。令和6年度は、天候不順の影響などもあり、羽化数が大きく減少することとなったが、幼虫の飼育方法が確立され、来年度の羽化に向けた準備を整えることができた。

(3) 企画展示

① 企画展 「つかまえて、育ててみよう！身近な生き物展」

内 容 身近な生き物と触れ合うよさを感じたり、自然や環境保全についてかんがえたりするきっかけとすることを目的に、生き物の採集や飼育方法について、解説パネルとともに生体展示を行った。

開催期日 令和6年4月23日（火）～6月2日（日）

入場者数 延べ 14, 521人

② 企画展 「カラー魚拓への誘い」

内 容 サカナの特徴に興味をもち、生物を題材とした文化活動への関心を高めるため、サカナの色や形、模様などを鮮やかに表現することができるカラー魚拓61点を、地元愛好家の協力を得て展示した。

開催期日 令和6年6月11日（火）～7月7日（日）

入場者数 延べ 7, 990人

③ 特別企画展 「森の生き物と仲良くなろう！カブトムシ・クワガタムシ展」

内 容 子どもたちが、生命の尊さや生き物と触れ合う楽しさを体験的に理解するため、例年好評な大淀川流域に生息するカブトムシやクワガタムシに関する企画展を実施した令和6年度は、日本と世界のカブトムシ・クワガタムシを比較して、その違いを感じてもらえるように、同じ種類のカブトムシ・クワガタムシを近くに展示する工夫を行った。また、成虫の生体展示だけでなく、採集や飼育のポイントを解説したパネルや採集・飼育に必要な道具、サナギとその飼育環境についての模型も展示した。

開催期日 令和6年7月13日（土）～8月25日（日）

入場者数 延べ 28, 508人

④ 企画展 「よく見てみよう！ちょっぴりこわい生き物&うんち展」

内 容 生命の存在価値や命の尊さについて考える契機とするため、ヘビやゴキブリ、クモなど、一般的に嫌悪されたり、怖がられたりする生体と生物の排泄物や排泄物についての解説パネルの展示を行った。令和6年度は、海外のゴキブリ等を増やすとともに、生き物のうんちについても種類を充実させ、排泄時の動画も新たに加えることで、日頃は忌避されがちな生物への関心を高めることができた。

開催期日 令和6年9月14日（土）～10月27日（日）

入場者数 延べ 13, 916人

- ⑤ 企画展 「身近な生き物と環境展」
内 容 生態系への理解を促進するため、飼育できる身近な生き物（金魚・メダカ・カメ）の紹介を行った。また、SDGs や自然環境保護への啓発を目的として、コオロギパウダー入りクッキーやタガメエクス入りサイダー、乾燥スズメバチなどの昆虫食や廃材水槽の展示、解説を行った。企画展と連動して昆虫食のカプセルトイの販売も行った。
開催期日 令和6年11月2日（土）～12月8日（日）
入場者数 延べ 7,752人
- ⑥ 特別企画展 「新開孝 昆虫写真展」
内 容 昆虫の生態やその魅力への関心を高めるため、大淀川学習館開館30周年記念講演の講師である新開孝氏がこれまでに撮りためた写真の中から、虫の生活の痕跡や生態を映した写真50点を展示した。
開催期日 令和6年11月16日（土）～12月8日（日）
入場者数 延べ 4,228人
- ⑦ 企画展 「変身しよう！みんなの生き物アート展」
内 容 乳幼児期から親子で自然に親しむきっかけを作ることや、SNSの普及によるフォトスポット需要が高まっていることを受け、自然を感じつつ、写真撮影を通じた文化活動にも触れることができるよう、チョウやトンボになりきる写真スポットとともに、へび年にちなんで、来館者が鱗に見立てたふせん紙に願い事を書いて貼る大きなへびと写真を撮るスポット、飛び出るアカメの写真スポット、海中散歩をしている気分で写真が撮れるスポットなど、5か所の写真スポットを設定した。
開催期日 令和7年1月4日（土）～1月26日（日）
入場者数 延べ 6,234人
- ⑧ 企画展 「春を感じよう！春の彩り展」
内 容 春休み期間中の子どもたちが、春に芽吹く植物等を観察する機会を設けるために、菜の花やハマダイコンなどの野草やアーモンド、藤、チューリップ、スイセン、パンジーなどの園芸種の展示を行った。
開催期日 令和7年2月8日（土）～4月6日（日）
入場者数 延べ 9,521人 ※3月31日（月）までの集計

（4）作品募集と展示

- 作品展 第30回 大淀川流域の動植物画コンクール入賞作品展
内 容 大淀川流域の動植物に対する興味・関心を高めるとともに、動植物を観察する力を育てるために、大淀川流域に生息・生育する動植物の精密画を募集し、入賞作品21点を展示した。
応募数 239点
開催期日 令和6年10月1日（火）～10月27日（日）
入場者数 延べ 6,367人

(5) 川のシアター

内 容 大淀川の自然環境への興味・関心を高めるため、8本の番組（大淀川の自然を訪ねて、大淀川の水と生き物たち、大淀川の生い立ちと生き物、母なる川～大淀川～、大淀川水辺のおさんぽ、大淀川の虫たち、ダイビング in 南郷、日向灘の海）を立体ハイビジョンにて上映した。

上映回数 881回

観覧人数 延べ 15, 104人

(6) 里山の楽校^{がっこう}

古来より、人が里山を通じて自然の恩恵を受けながら生活を送ってきたことについて理解し、身近な自然環境を大切にする心を育むために、多目的施設「杉の家」を中心として、里山を再現したフィールドを維持し、「ミツバチはかせになろう!」や「生き物の集まる植物を植えよう!」、「目指せ!ムシはかせ」等の教室事業の会場として活用を図った。また、第2食草園では、自然楽習園を維持するために必要な植物を育てるとともに、生涯学習支援事業である「芋ほり体験」も実施した。

3 学校対応事業

小学生を対象に、小学校3年生で学習するチョウの生態について、観察や講話を行うプログラムや館で飼育する生物の見学や解説を行うプログラムを実施した。また、小学校で理科を担当する先生を対象に、授業で取り上げられるチョウやメダカの飼育方法や生態についての講義・演習を実施した。小学生を対象とした見学プログラムは、主に遠足や校外学習においての利用であった。

(1) 授業支援

対 象 小学校 22校

実施回数 22回

参加者数 延べ 1, 916人

内 容 チョウやホタルの生態について、間近で見て触れられるという本物の良さを最大限生かしつつ、館で作成したワークシートを用いて学習指導を行った。

(2) 指導者支援

対 象 小・中学校教諭等

実施回数 3回

参加者数 延べ 26人

内 容 チョウとメダカについての生態観察や飼育方法に関する内容について、館独自のテキストを用いた講義や自然楽習園での演習を行った。

4 団体対応事業

(1) 子ども会・PTA・学童保育等への支援

対 象 子ども会・PTA・学童保育等

実施回数 0回（申し込みなし）

参加者数 延べ 0人

内 容 展示に関する説明や自然をテーマにした簡単な講座等を準備したが、本年度の申込はなかった。

(2) 出前授業等

対 象	児童館や地域づくり協議会等
実施回数	11回
参加者数	延べ 330人
内 容	身の回りにいる生きものを観察したり、その種類を調べたりする野外活動や生き物の講座を行った。

5 教室事業

自然に対しての興味・関心を高めるとともに、環境に対する理解を深めることを目的として行った。

(1) 環境教室

対 象	小学生以上
実施回数	7回（5月に4回、7月に2回、10月に1回）
参加者数	延べ 135人
内 容	「ホタル環境教室」を1回、「川の生き物で水質を調べよう！」を計4回、「自由研究にぴったり！浄水場見学会」を1回、「水の生き物のすむ環境を作ってみよう」を1回計画し、計画通りに実施することができた。

(2) 飼育・観察教室

対 象	小学生以上
実施回数	10回（全13回の内、3回は中止）
参加者数	延べ 162人
内 容	「初めてのカブトムシ・クワガタムシ飼育教室」を3回、「メダカの飼育教室」を3回実施した。「目指せ！ムシはかせ」を7回計画したが、うち天候等のコンディション不良や応募者がなかったため、3回が中止となった。

(3) 活動教室

対 象	小学生以上
実施回数	5回（全6回の内、1回は中止）
参加者数	延べ 75人
内 容	「水を浄化してみよう！」を2回、「ハーブティーを楽しもう！」、「シイタケの種駒打ちをしよう！」を各1回行った。また、「チョウが集まる植物を植えよう！」を2回計画したが、うち1回は応募者がなかったため、1回が中止となった。

(4) ものづくり教室

対 象	小学生以上
実施回数	5回
参加者数	延べ 89人
内 容	「昆虫標本を作ろう！」、「カラー魚拓を制作しよう！」、「植物標本を作ろう！」、「野鳥の巣箱を作ろう！」、「ミツロウでオリジナルキャンドルを作ろう！」を行った。

(5) ミニ講座

対 象	全来館者
実施回数	37回
参加者数	延べ 710人
内 容	館内で展示・飼育している動植物について、簡単な説明を行うとともに、実際に生体に触れる体験を実施した。

(6) 園児教室

対 象	幼稚園や保育所等の園児
実施回数	20回
参加者数	延べ 943人
内 容	動植物の話を聞き、実際に生きものを見たり、工作活動をしたりした。

6 イベント事業

大淀川学習館の利用を促進するとともに、自然に親しみ、水環境に対する関心を高めることを目的として事業を行った。

(1) 季節のイベント

対 象	全来館者（内容により年齢制限を設けているものもある）
実施回数	4回（6月に1回、7月に2回、12月に1回）
参加者数	延べ 183人
内 容	「カブトムシの幼虫を育てよう!」、「カブトムシの木登り大会」、「クワガタムシのすもう大会」、「クリスマスコンサート in 大淀川学習館」を実施した。

(2) わくわく工作

対 象	全来館者
実施回数	16回
参加者数	延べ 416人
内 容	大淀川流域の自然や文化をテーマにして、家族で楽しみながら創作を行うイベントを、毎月第1土曜日を基本として月に1回ずつ実施した。その中で、七夕やハロウィン、夏休みや秋休みの前後には回数を増やして実施した。 （工作内容の例:「ミニ鯉のぼりを作ろう!」、「かぶと飾りを作ろう!」、「切り紙で昆虫標本を作ろう!」、「七夕飾りを作ろう」、「貝がらで工作しよう!」、「風船のハロウィンおばけを作ろう!」等）

(3) 講演会

対 象	全来館者
実施回数	1回
参加者数	延べ 50人
内 容	令和6年度が大淀川学習館開館30周年にあたることから、開館30周年記念事業講演会として、昆虫写真家の新開孝氏を講師として招き、『虫のしわざ探検』と題した講演会を実施した。

(4) どきどき体験

対 象	全来館者
実施回数	5回
参加者数	延べ 142人
内 容	日本けん玉協会宮崎県支部から講師を招き、けん玉の基礎技術から応用技まで紹介するなど、日本古来の文化であるけん玉遊びを体験してもらうイベントを実施した。

(5) 生き物とのふれあい&読み聞かせ

対 象	全来館者
実施回数	12回
参加者数	延べ 158人
内 容	幼児向けの絵本の読み聞かせを行うとともに、絵本に登場する生き物に実際に触れる体験を実施した。

7 その他の事業

(1) 学校教育及び幼児保育等との連携

幼稚園や保育所等の園外活動や小中学校の校外学習など、見学時の要望に応じて、自然環境や生物についての講話や体験活動等を提供した。また、中学校や高等学校の職場体験学習や大学の博物館実習等についても積極的に受け入れた。

来館学校等

幼稚園・保育所等	173団体	延べ来館者	4,298人
小学校	43団体	延べ来館者	2,917人
中学校	4団体	延べ来館者	11人
高等学校	1団体	延べ来館者	1人
特別支援学校・大学・短大	5団体	延べ来館者	123人
合 計	226団体	延べ来館者	7,350人

(2) 各種関係団体との連携 ()内は団体等の名称

- ①自由研究にぴったり!浄水場見学 実施日 令和6年7月25日(木)
(宮崎市上下水道局:下北方浄水場) 入場者数 44人
- ②絵本の読み聞かせ音楽会 実施日 令和6年6月9日(日)
(宮崎市立宮崎北中学校) 入場者数 92人
- ③クリスマスコンサート 実施日 令和6年12月15日(日)
(宮崎市立宮崎北中学校) 入場者数 39人
- ④カラー魚拓を制作しよう 実施日 令和6年6月30日(日)
(色彩魚拓画会) 入場者数 子ども4人、大人3人、計7人
- ⑤しいたけの種駒打ちをしよう 実施日 令和7年2月9日(日)
(宮崎中央森林組合) 入場者数 子ども12人、大人13人、計25人
- ⑥生涯学習支援事業芋ほり体験 実施日 令和6年11月6日(水)
(下北方保育園) 入場者数 子ども15人、大人4人、計19人

（３）情報提供と広報活動

I C T（情報通信技術）を積極的に活用し、S N S（ブログ、フェイスブック）を用いた情報提供や広報活動を行った。その中で、生き物への興味関心を高めるとともに、学習館への興味を喚起することを目的に、イベント情報以外にも、館内や館周辺で見られる季節ごとの動植物の姿を積極的に発信した。

ホームページは全ての教室・講座について、内容を写真付きで紹介し、申込ページを新設した結果、参加者から申し込みが行いやすくなったとの声をいただいた。

また、宮崎市水道局の広報誌「せせらぎ」、宮崎市役所のY o u T u b eチャンネルと連動した「みやざき水辺の生き物図鑑」の企画・製作に協力した。

宮崎市民プラザ

1 管理運営事業

令和6年度から5か年の指定管理を受け、「集い・学び・交流する活動を推進」「安心・安全で環境に配慮」「公平・公正な管理運営」「利用者の視点に立つ」「効率的かつ効果的な管理運営」の5つの基本方針に基づき、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	309日
入館者数	176,201人
1日平均入館者数	570人

※台風による臨時休館 令和6年8月28日(水)(17時30分閉館)

8月29日(木)(終日閉館)

8月30日(金)(13時開館)

※舞台機構改修工事によるオルブライトホールの貸館中止期間

令和7年2月4日(火)～2月20日(木)

(2) 利用内訳

- ・1階 オルブライトホール 50,154人(利用率89.3%)
- ・4階 ギャラリー 29,872人(利用率93.2%)
- ・4階 練習室① 13,134人(利用率93.8%)
- ・4階 練習室② 3,368人(利用率98.7%)
- ・4階 大会議室 15,166人(利用率93.1%)
- ・4階 中会議室 7,960人(利用率93.2%)
- ・4階 小会議室① 4,493人(利用率95.1%)
- ・4階 小会議室② 3,889人(利用率91.9%)
- ・4階 和室 4,386人(利用率90.9%)
- ・4階 学習室 5,227人(利用率85.0%)
- ・2階 プレイルーム／1階 授乳室 403人
- ・1階 喫茶コーナー 2,586人
- ・3階 宮崎市民活動センター 23,646人
- ・3階 各団体室 4,872人
- ・ホール打合せ 12人
- ・ギャラリー打合せ 101人
- ・窓口受付 6,649人
- ・視察者等 283人

合計 176,201人

2 文化芸術企画事業

「鑑賞型」「創造・参加型」「普及・育成型」の3つの事業を軸に、地域の文化芸術資源などを反映させた多彩で独創性の高い事業を展開した。また、宮崎県立芸術劇場や宮崎県高等学校文化連盟との共催により、文化芸術関係の施設・団体との有機的連携を図った。

(1) 桂 歌春の落語教室（アウトリーチ事業）

本県出身で落語家の桂歌春さんと宮崎の小学生が交流する機会を創出するとともに、古典芸能の落語を身近に感じてもらうため、桂歌春さんが小学校へ出向いて実施した。

- ・日時 令和6年6月14日（金）①9：30～11：00
②13：20～14：20
- ・場所 ①宮崎市立池内小学校
②宮崎市立瓜生野小学校
- ・対象 ①6年生児童49人
②6年生児童38人
- ・講師 桂 歌春（落語家）

(2) 子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

幅広いジャンルの生演奏に触れてもらいながら乳幼児の豊かな感性や情操を育てるため、子どもから大人まで馴染みのある童謡を、いつもと趣向を変えてレゲエ・スカにアレンジしてコンサートを実施した。

- ・日時 令和6年7月5日（金）10：30開場 11：00開演
- ・場所 オルブライトホール
- ・出演者 WAVE ISLANDS
- ・入場料 無料
- ・入場者数 350人

(3) THE BACKSTAGE～舞台裏体験ツアー～

普段は入ることのできないオルブライトホールの裏側を見学・体験することで、舞台機構設備や舞台スタッフのお仕事についての興味関心を高めてもらうため、小学生親子を対象にコンサートとバックステージツアーの2部構成で実施した。

- ・日時 令和6年8月17日（土）13：00開場 13：30開演
- ・場所 オルブライトホール
- ・参加者数 135人
- ・演奏 TOKO BIGBAND（都城工業高等学校ジャズバンド部）

(4) MUSIC FOR THE SKY～屋外コンサート～

宮崎のアーティストによるコンサートと、当協会管理施設の学習体験コーナーやキッチンカーなど、五感で楽しめて市民プラザ周辺のにぎわいを創出する複合イベントを噴水広場で実施した。

- ・日時 令和6年10月6日（日）12：00～16：30
- ・場所 橘公園噴水広場（市民プラザ前）
- ・出演者 獣姫（ケモノヒメ）、永吉愛
- ・入場料 無料

- ・入場者数 336人

(5) 市民プラザ寄席「小遊三・歌春二人会」

市民が気軽に楽しめる落語を通して、古典芸能への興味関心を高めてもらうため、本県出身で落語家の桂歌春さんがプロデュースし、テレビ番組でお馴染みの三遊亭小遊三さんを迎えての二人会を実施した。

- ・日時 令和6年10月20日(日) 13:30開場 14:00開演
- ・場所 オルブライトホール
- ・出演者 三遊亭小遊三(落語)、桂歌春(落語)、坂本頼光(活動写真弁士)、昔昔亭喜太郎(落語)
- ・入場料 全席指定/前売4,000円
- ・入場者数 301人

(6) 市民プラザプロデュースシリーズ「みやざき歌の紅白～昭和歌謡コンサート～」

宮崎に縁のあるミュージシャン10人が紅白に分かれてバンドの生演奏で歌唱し、世代を超えて昭和歌謡を存分に楽しめるコンサートを実施した。

- ・日時 令和6年12月15日(日) 13:30開場 14:00開演
- ・場所 オルブライトホール
- ・出演者 歌手/神屋和幸、高田一寛、だーかず、濱田詩朗、Y o u k i、かみもと千春、河埜亜弓、黒木梨澄、野村あかり、浜崎奈津子
演奏/みやざき歌の紅白ハイパーオクテット
- ・入場料 全席指定/前売2,000円
- ・入場者数 321人

(7) みやざきARTリーチ(アウトリーチ事業)

文化芸術に対する関心を高めるとともに、文化芸術体験を通して心豊かな感性を育むため、多様な分野と連携して講師・演奏者を学校や施設等へ派遣し、鑑賞会やワークショップを実施した。

①プログラム「漫才」

漫才づくりを通して、プロのお笑い芸人からネタ作りなどを学び発表することで発想力やコミュニケーション力を高める機会とした。

- ・日時 令和6年5月31日(金) 9:10～10:50
- ・場所 宮崎市立住吉南小学校
- ・対象 6年生児童79人
- ・講師 チキンナンゴー(吉本興業所属)

②プログラム「邦楽」

和楽器の演奏鑑賞や演奏に合わせて一緒に歌い、楽器に触れてみることで記憶や感情を刺激し、高齢者の方々の心身健康維持の機会とした。

- ・日時 令和6年7月4日(木) 14:00～15:00
- ・場所 特別養護老人ホーム 江南よしみ園

- ・対象 入所・通所者 51 人
- ・演奏 邦楽グループ J T N

③プログラム「軽音楽」

身近な存在のバンドの演奏鑑賞や演奏体験を通して、不登校やひきこもりなど思春期の子どもたちの心身の健康や自己表現力を育む機会とした。

- ・日時 令和 6 年 9 月 13 日（金） 10：30～11：30
- ・場所 オルブライトホール
- ・対象 みよしクリニック児童思春期デイケア 通所者 38 人（小学生～高校生）
- ・演奏 TOYOSHIMA MUSIC SCHOOL 講師

④プログラム「演劇」

演劇の手法を使った体を動かすゲームやグループごとで昔話「桃太郎」の 1 分芝居劇の創作を通して、表現する楽しさやコミュニケーション力を高める機会とした。

- ・日時 令和 6 年 11 月 7 日（木） 9：25～11：05
- ・場所 宮崎市立古城小学校
- ・対象 4～6 年生児童 45 人
- ・講師 演劇ユニット「あんてな」

⑤プログラム「音楽」

クイズやゲームを通じた楽器の聴き比べやサックスをメインとした曲の鑑賞、即興の合奏体験を通して、楽器本来の音色の違いや面白さを体感する機会とした。

- ・日時 令和 6 年 11 月 15 日（金） 9：25～11：25
- ・場所 宮崎市立広瀬中学校
- ・対象 全校生徒 317 人
- ・講師 酒井勇也（宮崎大学教員）、宮崎大学学生

（８）宮崎国際音楽祭エクスペリメンタル・コンサート【共催事業】

宮崎県立芸術劇場との共催で、「クラシックの 20 世紀～どこから来て、どこへ行くのか～」と題し、日本を代表する音楽家の野平一郎さんが監修する 20 世紀のクラシック音楽のコンサートを実施した。

- ・日時 令和 6 年 5 月 5 日（日・祝） 14：30 開場 15：00 開演
- ・場所 オルブライトホール
- ・出演者 野平一郎（監修・指揮・ピアノ）、漆原啓子（ヴァイオリン）、小川恭子（ヴァイオリン）、鈴木康浩（ヴィオラ）、辻本玲（チェロ）、高木綾子（フルート）、三界秀実（クラリネット）、目黒一則（ヴィブラフォン）、佐藤寛子（メゾソプラノ）、長尾洋（ピアノ）、藺田潤子（司会進行）
- ・入場料 全席指定 S 席／前売 5,000 円
A 席／前売 3,000 円
- ・入場者数 371 人

(9) 高校生のための演劇技能発表会【共催事業】

宮崎県高等学校文化連盟との共催で、高等学校総合文化祭に向けた高校演劇部の技術力向上を目指し、演技や脚本・舞台技術についての講習会と成果発表会を実施した。

・日 時 令和6年7月11日（木）10：00～16：30

12日（金）9：00～17：00

・場 所 オルブライトホール、ギャラリー、会議室、和室、学習室、練習室

・講 師 演技実践講座／劇団こふく劇場、劇団FLAG、ユニットろむ

創作脚本講座／永山智行（劇団こふく劇場）

舞台技術講座／市民プラザ舞台技術職員

・参加者数 269人（宮崎県内高校演劇部員）

3 情報提供と広報活動

市民プラザでは、幅広い年齢層の市民へ多様な情報を効果的に届けるため、新聞・テレビ・ラジオ・フリーペーパーなどのメディアと自前の媒体・ツールを組み合わせ、相乗効果を図りながら情報を発信した。

公式ホームページやSNS（フェイスブック、X、YouTubeチャンネル等）を通じたリアルタイム発信、市民プラザのイベントガイド誌や当協会機関誌「まなぶんか」および「市広報みやざき」への情報掲載、新聞社・放送局へのマスコミ訪問や宮崎市政記者クラブへの積極的なプレスリリース等々、多岐にわたる広報活動を展開した。特に、地域密着型の宮崎ケーブルテレビや宮崎サンシャインFMでは、職員が出演して生の声を届けた。

さらに、県内公立文化施設とのネットワークを活用したチラシの相互配架や類似公演でのチラシ折り込み、過去数年間の公演来場者に対するダイレクトメール発送、市民プラザ館内のデジタルサイネージを用いた視覚効果のある広報も実施。今後も多面的な情報提供を目指していく。